

つつみ の ことわり

伊勢貞丈「包之記」の研究

山口信博＋折形デザイン研究所

折形は贈答の際の包みと結びの礼法である。その折形のバイブル的な存在に伊勢貞丈の「包結図説」がある。江戸の中期、天保十一年（1840）に出版されたもので、「包之記」を上巻、「結之記」を下巻とし、合わせて「包結図説」と呼ばれている。

その「包之記」には十八種の折形が図入りで紹介されているが、ほとんどが見開きに完成図と展開図が示されているのみである。

この完成図と展開図の間の、省略された手順をダイアグラム化し、それを通して形態に働く思考の原形や文化的無意識を読み解くという試みの展覧会である。

さらに、山口信博と折形デザイン研究所が十年余にわたり、古典とどのように向き合い、そこから飛躍して具体的な形へいかに着地させてきたかの一端を、見ていただく展覧会でもある。

2013年2月19日(火) ↓ 3月21日(木)

11:00 a.m. ↓ 7:00 p.m. 日曜・祝日休館 入場無料

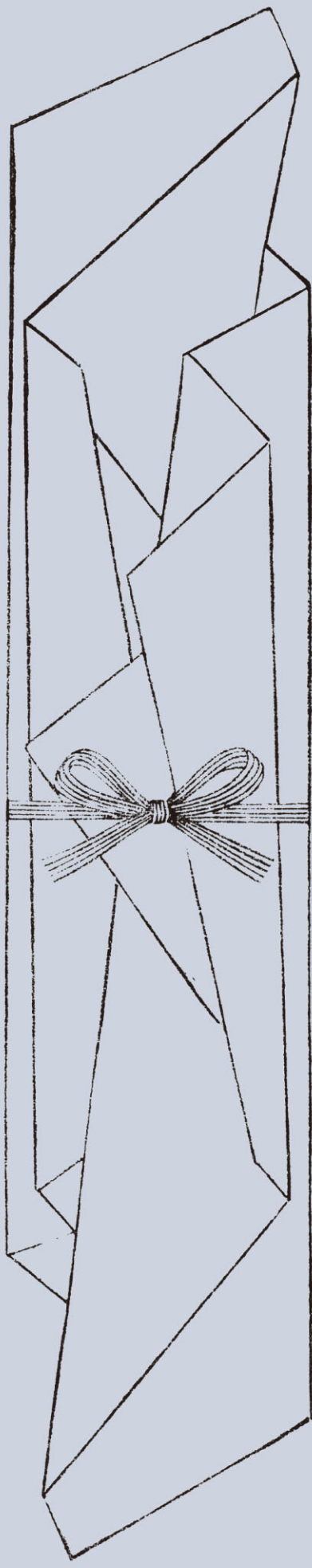
会場／クリエイションギャラリーG8

折形デザイン研究所

グラフィックデザイナー山口信博を中心とし平成十三年(2001)に設立。著書に「折る、贈る。」ラトルズ、『半紙で折る折形歳時記』平凡社、『新・包結図説』ラトルズ、『和

伊勢貞丈(いせ・さだたけ/いせ・ていじょう)

享保二年(1717)生まれ、天明四年(1784)没。江戸時代中期の旗本・有職故実研究者。通称は平蔵、安齋と号した。著書に、『貞丈雑記』『軍用記』『犬追物類鏡』『包結図説』『神道独語』などがある。



中を包む引ひくてもう一度、あつらひるゝ法

帯を包事
紙をすみちがへにして
両方にひだを取べし
懐妊の婦人のいはた帯も
人に遣すことあらば
包様おなじ
事也

トークショー

[第1回] 日時：2月19日(火) 7:10p.m. →8:40p.m. 出演：山口信博＋小泉誠(家具デザイナー) いずれも入場無料 要予約(TEL 03-6835-2260)	[第2回] 日時：3月2日(土) 5:30p.m. →7:00p.m. 出演：山口信博＋石倉敏明(人類学者)	[第3回] 日時：3月16日(土) 5:30p.m. →7:00p.m. 出演：山口信博＋赤木明登(塗師)
--	--	---

折形ワークショップ

[第1回] 日時：3月2日(土) A/1:00p.m. →2:30p.m. B/3:00p.m. →4:30p.m. 講師：山口信博＋折形デザイン研究所 定員：各8名 ワークショップの材料費：各回1,000円 要予約(TEL 03-6835-2260)	[第2回] 日時：3月9日(土) A/1:00p.m. →2:30p.m. B/3:00p.m. →4:30p.m. 講師：山口信博＋折形デザイン研究所 定員：各8名	[第3回] 日時：3月16日(土) A/1:00p.m. →2:30p.m. B/3:00p.m. →4:30p.m. 講師：山口信博＋折形デザイン研究所 定員：各8名 会場構成：小泉誠
---	--	---

Creation Gallery G8
クリエイションギャラリー G8
104-8001
東京都中央区銀座 8-4-17 リクルートGINZA8ビル1F
TEL.03-6835-2260 <http://rcc.recruit.co.jp/>

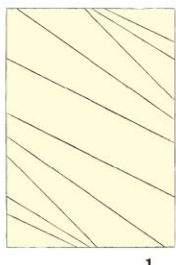
JR新橋駅 銀座口	首都高速	アジックス ●	ガーディアン・ガーデン ウエスト ●	外堀通り	地下鉄銀座駅 C2出口	●有楽町 マリオン
地下鉄新橋駅 5番出口	●クリエイション ギャラリーG8	●銀座日航ホテル	●電通ビル		ソニービル ●	●数寄屋橋 交差点

RECRUIT
主催：クリエイションギャラリーG8
協力：株式会社 竹尾

太極図は、回転対称の関係にある二つの巴の図形が円を二分している。黒と白は陰と陽であり、その二つは相即の関係にある。陰は陽に転じ、また陽は陰に転じる相補性をもち、相対にして一対である。

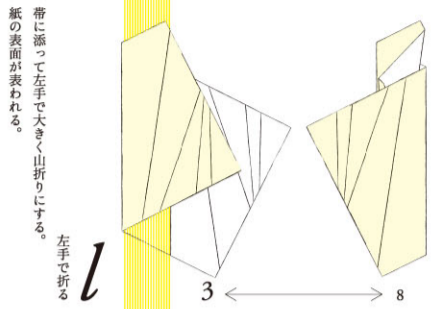
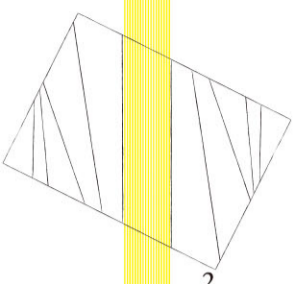
これは世界の基本的二元性のすべてのシンボルである。二つの巴は時に天と地であり、左と右、男と女、昼と夜、偶数と奇数、吉と凶でもある。このように世界は二項に二分されるが、東洋思想ではこの分極した二項を対立とは見ない。

折形にも、この東洋思想の陰陽の原理が働いている。特に顕著に形に表れているのが、「帯包」と「渡し金包」の折形である。

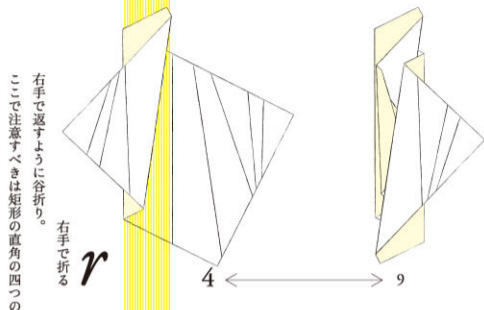


伊勢貞丈の「包之記」の原図は
裏面の側に折り線が示されている。

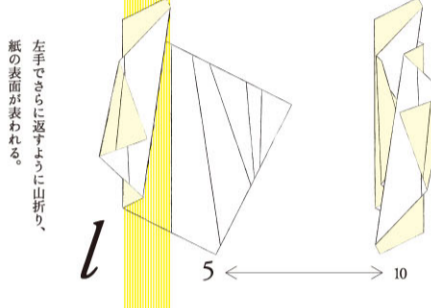
一度、裏面に返し、時計回転とは逆の左に
回転させ、贈り物である帯を中心に括える。



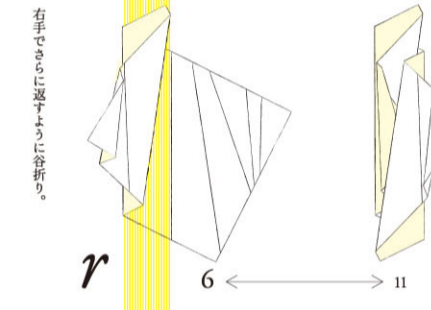
左手で折る



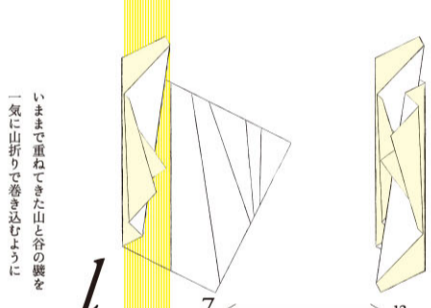
右手で折る



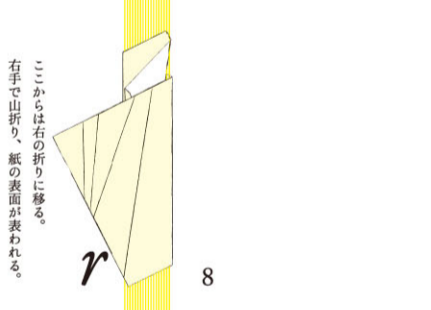
左手でさらに返すように山折り、
紙の表面が表われる。



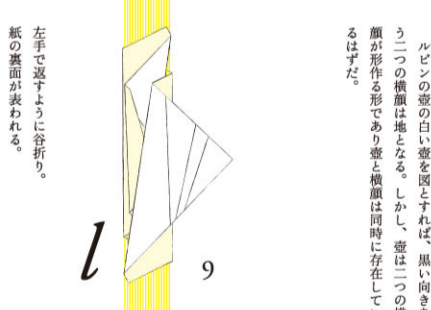
右手でさらに返すように谷折り、
ここで注意すべきは折形の直角の四つの
頂点を揃えることである。



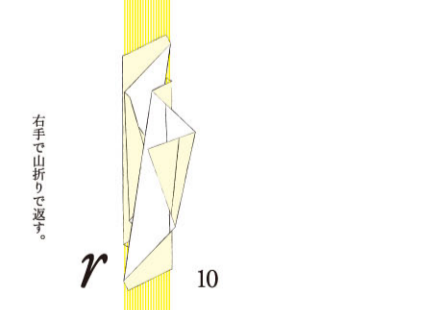
左手でさらに返すように山折り、
紙の表面が表われる。



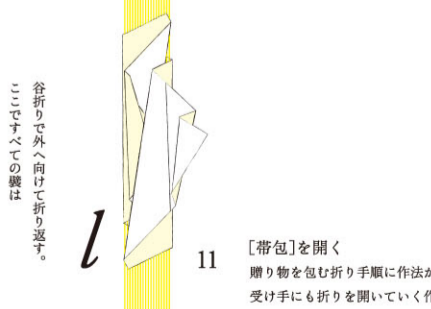
ここからは右の折りに移る。
右手で山折り、紙の表面が表われる。



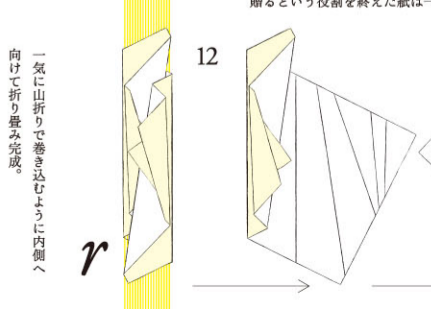
左手で返すように谷折り、
紙の裏面が表われる。



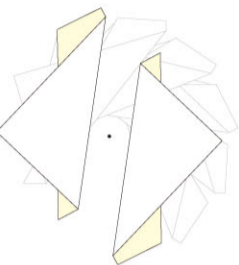
右手で山折りで返す。
谷折りを外へ向けて折り返す。
ここですべての面は
内側が表われている状態である。



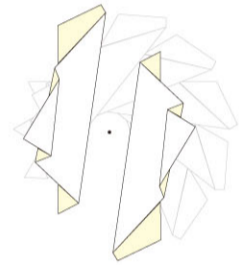
一気に山折りで巻き込むように内側へ
向けて折り畳み完成。



【帯包】を開く
贈り物を包む折り手順に作法があるように、
受け手にも折りを開いていく作法がある。
受け手は折りを解き開きながら
贈り手の身体所作をリバースするようになぞることとなる。
贈るという役割を終えた紙は一枚の元の紙にもどる。



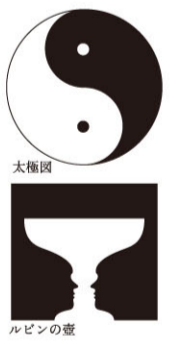
左と右の二つが
回転対称であることがわかる。



ここで内側に折り込まれる襷が表われる。

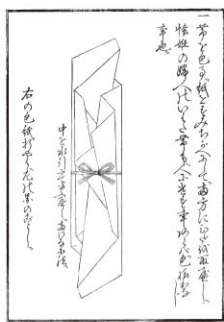
R

右の包みは右前が原形となる。
凶は左前なり、
ここにも吉凶が相即の関係として表われている。



太極図は白の「陽」と、黒の陰が、巴形に相互に
からみあう象徴図形。陽は陰に転じ、陰はまた陽
に転ずるといふ、流動する自然理をも表わして
いる。

一つの形の背後には、もしくは二つの形の間には、
形でない部分、背景や余白や間という反対の形が
存在する。それは、デザイン用語ではフォームに
対してカウンターフォーム、カウンタースペース、
ホワイトスペース等と呼ばれるものである。
ルビンの壺の白い壺を壺とすれば、黒い向きあ
う二つの横断は地となる。しかし、壺は二つの横
断が形作る形であり壺と横断は同時に存在してい
るはずだ。

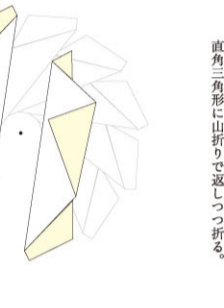


「帯包」の原文
帯を包む事
紙をすみがへにして、
襷にひだを取べし、
懐妊の婦人のいはた帯も、
人に遣すことあらば、
包様おなじ事也

「帯包」の現代語訳
帯を包む場合、
紙を角連え(直角を軸にする)にして
両方にひだをとる。
懐妊の婦人の岩田帯も人に遣す場合には、
包み方は同じことである。



aは直角(等辺)三角形であり、
その内側にbの直角三角形がひそむ。



直角三角形に山折り返しつづつ折る。



幾度も表と裏に返し返し左右の手を使い、
行う様は舞いの手の所作に似ている。



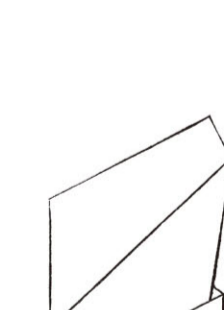
ここからは右の折りに移る。
右手で山折り、紙の表面が表われる。



左手で返すように谷折り、
紙の裏面が表われる。



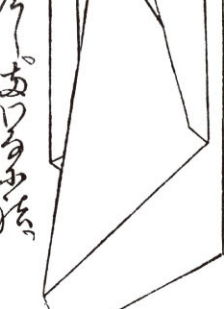
右手で山折りで返す。
谷折りを外へ向けて折り返す。
ここですべての面は
内側が表われている状態である。



一気に山折りで巻き込むように内側へ
向けて折り畳み完成。



「渡し金包」
水引にて結べし、両わなに結



「帯包」の左右の折りの形に回転対称が見てとれるように、
「渡し金包」にも回転対称が読みとれる。
しかし、「帯包」と「渡し金包」との間には、折り始めの際の、紙の回転の
角度と物を折る位置の違いが形にバリエーションを与えている。
ここにも新しい折形を生み出すヒントがある。

L

紙の中心に贈り物の正巾を重ねるように据え、
これに身体(の正巾)を重ね合わせる。
三者が重なるように意識を持つことが重要である。



左



右



右



右



右



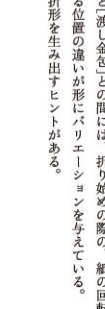
右



右



右



右